

会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度第2回吉川市障がい者の地域での生活を考える検討会議		
開 催 日 時	令和 4年12月20日(火)	午前・午後 午前・午後	3時00分から 4時30分まで
開 催 場 所	吉川市役所 201会議室		
出席委員(者)氏名	星座委員、渡辺委員、亘委員、高橋委員、鈴木(平)委員、糸井委員、杉田委員、吉澤委員、金井委員、古野委員、塩入委員、岡田委員、鈴木(俊)委員		
欠席委員(者)氏名	明星委員、若山委員		
担当課職員職氏名	吉川市長 中原恵人 こども福祉部長 伴茂樹 こども福祉部障がい福祉課長 程田浩司 こども福祉部障がい福祉課障がい支援係長 薄田千枝子		
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 開 会 2 あいさつ 3 議 事 (1) 報告書(案)について 4 その他 5 閉 会 ※すべて公開		
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)			
傍聴者の数	なし		
会議資料の名称	・次 第 ・吉川市障がい者の地域での生活を考える検討会議報告書(案) ・報告書に関する意見一覧		
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録		
会議録確認指定者	吉澤委員、古野委員		
その他の必要事項	なし		

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	資料の確認 1. 開会 開会の宣言 2. あいさつ 中原市長 あいさつ 星座委員長 あいさつ 3. 議事 (1) 報告書(案)について 【関係資料】 ・吉川市障がい者の地域での生活を考える検討会議報告書(案) ・報告書に関する意見一覧
事務局	(資料を基に説明)
委員	今回の報告書に関する意見は、精神障がい者の家族会であるしらこぼと会からの意見である。自分は、埼玉精神障がい者家族連合会にも所属している。連合会の会員数も1,000人を超えている。そのような方たちの意見としても、報告書に関する意見一覧の対応案のとおり、コメントを加えていただきたい。
委員長	報告書に関する意見一覧(1)「障がい者の就労支援」の対応案として、「就労できない方がいる」という表現であるが、どのような形態であれ就労と捉えるのであれば、就労継続支援事業のような福祉型就労に参加したりチャレンジすることはできる。そう考えると、重度の障がいがあっても働くということではできないのか。重度の障がいがあっても短時間で働いている方もおり、何か自分にできるかもしれないとの想いで、自分に合った働き方を模索しているので、「就労できない方がいる」という表現でない方がよいのではないのか。
委員	我が息子は以前一般企業で働いていたが、精神症状が不安定で警察沙汰になり、昨年措置入院となった。約1年の入院を経て就労継続A型事業所に通ったが、「何でこんなところで働いているんだ」という幻聴と妄想がひどくなり働けなくなった。そのような障がい者がいることを知ってもらいたい。
委員長	そのような事情を抱えた方もいる中で、入退院を繰り返しながらも短期間で働いている方もいる。障がい者の“賃金を得る”という願いを叶えるために受け入れてくれる場があることは素晴らしいこと。
事務局	この場で報告書の表現を調整するのは困難なため、これらのご意見を踏まえ、委員長と相談しながら修正していく。
市長	働きたくてチャレンジしても上手くいかない現状を理解してほしい。このような厳しい現状があり、労働意欲はあっても続かないというニュアンスを表現するのであれば、委員長が言うように「重度」とか「できない」という言葉は入れない方が前向きになる。精神障がい者の抱える大変さはこの場で共有したので、その意見を踏まえて修正していき

<p>委員長</p>	<p>い。</p> <p>この資料にないことでも、第2期の検討会議に参加して思うことなどでもよいので、ご意見を頂きたい。</p> <p>検討会議を実施してきた2年間をみても、障がい福祉サービスの利用は増えている状況であり、皆さんからの自由な意見を頂きたい。</p>
<p>委員</p>	<p>報告書に関する意見一覧(2)「グループホームの設置促進」の対応策のところ、「重度障がい者も利用できるグループホームや、今後の利用を考慮するうえでも体験利用ができるショートステイ整備を併せた」という表現には賛成である。重度障がい者が入れるグループホームを聞いたことがなく、ぜひ市内にできてほしい。</p>
<p>市長</p>	<p>この検討会議で、重度障がい者のグループホームについては何度も議論があった。市内にグループホームは増えたが、重度の障がい者をどうサポートするかは今後も検討が必要であり、市独自で何ができるのか検討していきたいと考えている。この表現はぜひとも入れていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>障がい者の中にはフルで働くのは難しい方もいる。週20時間以上30時間未満で働いている精神障がい者には、今年度末まで、障がい者の法定雇用率算定が0.5人ではなく1人としてカウントしてよいという特例措置が講じられている。また、週20時間未満で働いている方についても法定雇用率に算定できないかという議論も進んでいる。障がい者が短時間で働ける環境が少しずつ広がっていることを知っていただきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>就労支援センターでも、短時間就労の制度を利用して働いている方もいる。このような制度はありがたく活用している。</p>
<p>委員</p>	<p>先日、市の合同就職面接会に参加して、障がい者の働く意欲を感じることができた。自社でも3名の障がい者を採用する予定。短時間労働の話が出たが、精神障がいのある方の中には長時間働くことを苦にしない方もいるので、企業にとって戦力として雇える良い部分もある。</p> <p>精神障がいの方はわからない部分が多く難しいと感じていた。雇用側の理解が進まなければ、障がい者が働き続けることは難しい。</p> <p>今回創設した補助制度含め、これからも障がい者が働きやすい環境が整っていくことを期待したい。</p>
<p>委員長</p>	<p>働く力はあるが、障がい特性により地元でしか働けない方にとっては、地元では仕事がないため諦めていた方もいたと思う。それがここ数年で変わってきたと感じている。それは、さまざまな制度が充実してきたこともあるが、やはり働く場ができたということが大きいと思っている。</p> <p>就労といっても、就労継続支援A型やB型など様々な働き方がある。一般就労だけではなく、障がいのある方がどのように仕事をしていて、ステップアップを目指しているのか伺いたい。</p>
<p>委員</p>	<p>当A型事業所の利用者は1日4時間、週5日で働いており、障がい者雇用でフルに働くために必要な習慣と体力をつけ、頑張っていけるようにサポートしている。仕事内容は、外部からの受注が主で、日によって仕事内容が変わるため、その中で本人の得意・不得意を見極めて、本人</p>

	<p>に適した仕事を見つけ未来につながるようサポートしている。</p> <p>また、この会議で様々な情報を得たことから、利用者からの就労相談の際、障がい者雇用の実績やサポート体制について助言することができた。この会議に参加できて非常に良かったと思っている。</p>
委員	<p>当事業所も1日4時間、週5日で、20代から65歳を超える方も利用している。若い方は就労経験が少ない中でA型に来て一般就労を目指しており、接し方や導き方が難しく、60歳以上の方は求人状況を踏まえながら一般就労を目指すしかないことが課題である。A型は、毎日出勤してスキルを磨くことを目的のひとつとしているが、次にステップアップさせることが難しく、受入企業の開拓など行政の協力で障がい者雇用の間口が広げられたらよい。このような会議で、自分たちが把握する課題を提供しながら、障がい者を支援していきたい。</p>
委員	<p>当法人はB型事業所と生活介護を行っており、知的障がい者が主な利用者。毎日同じ作業を同じリズムで続けていくことが元気の素となっている。近年では障がい者の保護者が高齢化しており、将来、我が子の面倒を見られなくなったとき、グループホームに入居するのか、または入所施設の方がよいのかなどの悩み相談がある。今後は、暮らしの場を考えていきたいと思っている。</p>
委員長	<p>当法人は、車いすメンテナンス、コーヒー販売、洗車など幅広い仕事を実施している。以前は同じ人たちが同じ作業をしていることが多かったが、最近は次のステップとしてA型を目指すとか人の入れ替わりがあるようになったと感じている。市役所のコーヒー販売では、利用者が表に出ることで自信をつけて就職した人もいる。欲しいものは自分のお金で買えるということも大切にしている。11月頃から物価が上がり、収益の問題などについても共有し、利用者の力を借りて一緒に考えたいというスタンスで行っている。</p>
市長	<p>物価が高騰する中、コーヒー販売などは価格を上げずに企業努力で頑張っている。パンも含めてより多くの人に買ってもらえるよう、市も協力していきたい。また、販売に来ている利用者も入れ替わっていると感じており、就労につながっていることは喜ばしいことである。</p>
事務局	<p>現在、市内でショートステイを含めたグループホームの創設の話がある。第2期の会議の中で、就労支援・グループホーム・ショートステイの考え方などいろいろ議論をいただいて、私どもも大変勉強になった。就労支援に関しては今年度から補助制度もでき、感謝申し上げる。</p>
委員長	<p>ショートステイを含めたグループホーム創設の話が進んでいる中で、報告書の最後にグループホーム設置の補助制度とショートステイの補助に触れている。この部分は民間の力で、今後もある程度増えていくと考えている。そのような中で、重度障がい者を対象とした施設という部分の課題は残るものの、個人的には補助制度の創設については外してよいのではと考えている。</p> <p>また、この会議では、暮らしと就労について議論してきたが、一般就労以外にも就労支援施設などで様々な障がい者がたくさん働いている。今後は、その方々への支援も検討する必要があると思っている。第3期の検討会議の課題として、施設型の就労支援の充実に向けた具体的な支</p>

	<p>援策の検討といった文言を最後に追加できないか。</p>
市長	<p>具体的には、7ページ下から3行目の「…課題も残されています。」の続きに「今後は、重度障がい者が利用できるグループホームや体験利用できるショートステイの検討をされるよう提案します。」というようなことか。</p>
委員長	<p>その後、「今後に向けて、施設型の就労支援の充実に向けた支援の在り方についても検討していただきたい」というような文言も追加できたらよいと思う。一般就労を目指す以外にも様々な方がいるので、いろいろな働き方があっていいのではないかと思う。</p>
事務局	<p>前回の会議の中でも、今後就労支援についてもっと議論を深めていく旨の話があった。委員長から多様な働き方に向けた支援の話しをいただいたので、再度報告書を修正したい。また、第2期の会議は今回で終了となるが、今回いただいた内容を踏まえ、第3期では先進地事例の調査などを含め、引き続き就労支援について検討していきたい。</p>
委員長	<p>最後に質問や感想があればいただきたい。</p>
委員	<p>検討会議での報告書や提言書は進路指導に活用しており、卒後の世界はいい意味で変わってきていることを伝えている。以前までは、卒業の機会に就労できなければ終わりという考え方であったが、令和に入ってから、就労のあり方は様々であり、数年かけて訓練をして就労を目指す道もあることを、この会議でいただいた資料を交えて伝えている。</p>
委員	<p>特別支援学校では、6歳から18歳までの12年間は個々の働き方であったり夢や希望など、生き方を子ども達と一緒に考えていく時間になる。今後、社会の形態も変わっていく中で、子どもたちの思いを未来に繋ぐには、校内外の連携が必要になる。今後もこのような会議に参加させていただいて、切れ目のない支援体制を作っていきたい。</p>
委員	<p>我が娘は今年で39歳。中学から支援級、高等部は養護学校、その後フレンドパークに通所し最初はパン作りをしたが、後に就労移行に移り就労を目指した。支援員の勧めで、様々な企業へ実習や面接に行ったが採用には至らなかった。娘は話すことが苦手で人との会話ができないが、今の会社の実習に行ったとき、話せなくても仕事ができればいいとのことで採用になった。その時はうれしくて涙が止まらなかった。今も楽しく仕事に行っている。あの時、支援員が諦めずに一緒に頑張ってくれたこと、職場が娘の障がい特性を理解してくれたことに感謝している。</p>
委員	<p>障がいのある子を持つ親が、グループホームを作る際の補助制度についても検討していただきたい。法人以外の個人や親たちが集まってお金を出し合ってグループホームなどを作る際に、市から補助があるとより良いものができると思う。法人が創設することもよいことではあるが、様々な障がいに対応できて幅広く制度が活用できるとよい。</p>
委員長	<p>議題はこれで終了とする。ご協力感謝する。</p>

事務局	<p>4. その他</p> <p>本日の会議でいただいた意見を踏まえ、委員長と調整の上、事務局で報告書を修正する。修正した報告書は、委員長の一任で完成とさせていただきますと考えている。</p> <p>完成した報告書は、後日改めて委員長から市長へ提出する場を設け、委員の方々にも報告する。</p> <p>委員の任期は報告の日までとなっており、今回が最終となる。今までお忙しい中ご出席いただき、さまざまな意見をいただき感謝申し上げます。引き続き、障がい福祉への支援をいただきたい。</p> <p>5. 閉会</p> <p>閉会の宣言</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和 5年 2月21日</p> <p>署名委員 古野 量平（自署） 署名委員 吉澤 博信（自署）</p>	